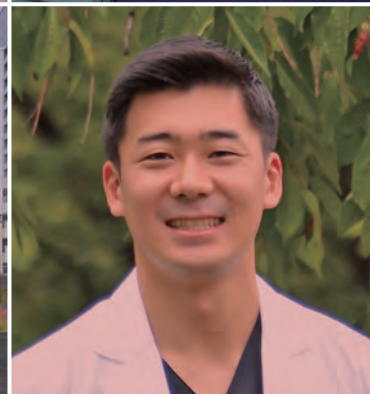


※「ななせ（七星）」とは、北の空に輝く「北斗七星」を意味し、北極星のような不動の真理を求め、さらに広く世人の道しるべとなるようとする本研究科・医学部の理念が象徴されています。



ご挨拶



オープンキャンパス2025実行委員のメンバー

国際卓越研究大学スタート



医学部長
石井 直人

2024年11月に東北大学が国際卓越研究大学第1号として認定されました。他の有名大学ではなく本学が最初に選ばれたのは、光栄なことであり嬉しい限りです。本年1月に初年度の支援金として約150億円が本学に供与され、今年度はさらに増額される見込みです。医学部では、研究力を大幅に向上させるために、海外の有名研究者を本学の教授としてリクルートすることを開

始し、既に4名が内定しました。25年後には、教員の30%、大学院生の40%を外国人とする予定であり、公用語を英語にすべく準備を開始いたしました。近い将来、本学キャンパスで日常的に英語が飛び交うことは間違いありません。皆様のお子様が学生生活の中で国際性を涵養し、世界で活躍することを願っております。

Essay
仙台市と東北大学

東北大学が3番目の帝国大学として仙台市に開学したのは1907年のことです。当時の仙台市の人口は約10万人であり、東北大学の開学がきっかけで学都仙台と呼ばれ始めました。現在、仙台市の人口は109万人ですが、その中で東北大学関係者がどのくらいいるかご存じでしょうか。学生、教職員、その家族を含めると3万人以上であり、仙台市民の35人に1人が東北大学関係者ということになります。お子様が生活している仙台市を、東北大学とのつながりからご覧いただくと興味深い発見があるはずです。



東北大学医学部1号館（手前）と6号館（奥）



仙台の玄関口・仙台駅

気持ちも新たに、新緑の季節にあたって



医学部学生後援会会長
黒澤 一

気持ちも新たに、新学期となりました。仙台は新緑の中、爽やかな一番いい季節です。勉学にクラブ活動に、学生それぞれがいそしんでいます。わが家でも、息子の様子を見て、そんな雰囲気を感じます。たまにする会話などを通じ、リアルな学生生活を垣間見て、驚いたり感心したりという感じです。保護者の皆様にとって、いろいろとご心配とは思いますが、皆、しっかり大人として過ごせ

ているようです。ご安心いただきたいと思います。引き続き、時に厳しく時に温かい目で見守っていただければ幸いに存じます。学生後援会としても、学生たちが健康で安全に過ごせるよう、一生懸命に学びができるよう、ますます応援していかななくてはと思う次第です。保護者の皆様のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

Essay
星陵キャンパス内、狼坂について

東北大学星陵キャンパス内に、「狼坂」があります。「仙台七坂」の一つに数えられます。傍らに、医学部同窓会が建立した石碑が立っています。曰く、「八幡太郎源義家が後三年の役に奥州下向の折、万民を悩ます狼を退治し埋めた所」とあります。学生や教職員が日常的に往来する平凡で小さい坂なので、名前がついている正真正銘の由緒ある坂だとは誰も思わないでしょう。学生諸君にはぜひ記憶にとどめてほしいし、保護者の皆様が訪問の機会があれば、どんなかわいい坂なのか楽しみにご覧いただきたいです。



狼坂



旧跡 狼坂の碑



①看護学専攻ウェアセレモニー ②鹿野奨学奨励賞授賞式より ③新入生と保護者 ④～⑥入学者懇談会より ⑦～⑨オープンキャンパスより

国の礎として



医学部医学科長
高瀬 圭

医学部学生の保護者の皆様、日頃より本学の教育・研究活動に温かなご支援をいただき、誠にありがとうございます。東北大学の学生歌には「我らこそ国の礎」との一節があります。激動する世界の中で、本学は国際卓越研究大学として世界に通用する人材の育成を進めています。グローバルに羽ばたくときにこそ、その出発点である日本の美しい国土と豊かな自然や人々のつながりを大

切に思う心が必要だと考えます。その基盤の上に研究に必要とされる「一輪の花を美しいと思う心」が育まれるのだと思います。母校である本学での学びが、生涯にわたって学生たちの心の故郷となり、研究を楽しむ心と国の礎たる気概を持てるように、我々も教育の質をさらに高めてまいり所存です。今後とも、皆様のご指導とご支援をよろしくお願い申し上げます。

保健医療のリーダーとなるための大学院

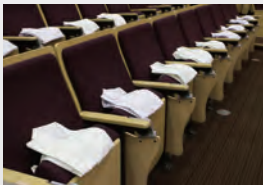


医学部保健学科長
宮下 光令

学生後援会の皆様には日頃から数々のご支援をいただき感謝申し上げます。2025年度の保健学科は3専攻で合計148名の新入生を迎えスタートいたしました。全学生を一人前の医療職者・社会人として卒業させるべく、教職員一同努力してまいります。保健学科は国内外で活躍する保健医療のリーダーおよび研究者・教育者の育成を使命としております。そのためには、学部を卒業し

たらぜひ大学院に進学してほしいと考えております。看護学専攻では一度臨床に出てから進学することが多いですが、その数は十分とは言えません。放射線技術科学専攻・検査技術科学専攻は修士課程へは多くの学生が進学しているものの、博士課程への進学はいまひとつです。保護者の皆様にはお子様が大学院進学を検討していただければと思います。

大学行事・カリキュラム（2025年度後期）

9月	25日	検査技術科学専攻ウェアセレモニー（保3年）
	26日	放射線技術科学専攻ウェアセレモニー（保3年）
10月	12・13日	医学祭 ※星陵キャンパス
	24～26日	大学祭 ※川内キャンパス
	29・30日	卒業試験（筆記）本試験（医6年）
11月頃		保健学科卒業研究発表会（保4年）
12月	1日	臨床修練説明会・キャリアパス懇談会（医4年）
	4日	東北大学・東北医科薬科大学 合同慰霊祭・遺骨返還式（医2年）  
	18・19日	基礎医学修練発表会（医3年）
1月	30日	マッチング説明会（医5年）
	30日	長陵協議会加盟病院説明会
2月	2日	医学科白衣式（医新5年）  
	12・13日	退職教授最終講義
3月	25日	学位記授与式・学位記伝達式  

※日程および実施有無については変更になる場合があります。

助成行事のご報告

医学部学生後援会が助成しました

2025年9月までに東北大学医学部学生後援会が助成した行事等をレポートします。

4/3

東北大学医学部入学者懇談会

医学部副学部長
本間 経康

午前中の東北大学入学式に続き、午後に星陵キャンパスにて医学部入学者懇談会を行いました。

全体会では、医学部長、病院長、学生後援会会長の挨拶と、医学部および学生後援会の役員を紹介しました。その後は医学科ならびに保健学科に分かれての説明会、そして、懇談と星陵キャンパスの見学がありました。

医学科では、高瀬圭医学科長が「医学科紹介」を、石井正教授が「医学科のキャリアパス」を説明しました。また、学生の大堤聖香さんは、厳しくも充実した6年間のカリキュラム、部活動や研究活動の両立について、分かりやすく発表しました。

保健学科では看護学、放射線技術科学、検査技術科学の各専攻に分かれ、それぞれ尾崎章子教授、千田浩一教授、青柳哲史教授から概要と進路状況の

説明がありました。また、学生の渡邊悠奈さん、小野寺悠樹さんと仙木志依さん、伊藤麻子さんと近野稜太さんが、授業や部活動などの学生生活について各専攻の特色やアドバイスなどを含めて分かりやすく発表しました。

全体会ではやや緊張の面持ちだった新入生も、その後の各学科・専攻説明会のときにユーモアを交えた説明もあって、キャンパス見学の頃には打ち解け、今後の楽しい学生生活や医学部での学びを具体的に想像いただけたと思います。また、保護者の皆様にも施設見学や教員との懇談なども通して、医学部をより深く知っていただけたら幸いです。今年は昨年よりも多い394名もの方々にご出席いただきました。今後もこのような機会に是非ご参加いただけますと大変ありがたく存じます。



石井直人医学部長挨拶



医学科学学生発表の様子



保健学科看護学専攻会場の様子



懇談の様子

2025

3月

3/25

4月

4/3

4/17

5月

5/24

3/25

保健学科謝恩会

医学部保健学科第18期生謝恩会幹事
医学部保健学科検査技術科学専攻卒業生
菅原 遥

医学部長の石井直人先生、保健学科長の本間経康先生よりご祝辞と乾杯の音頭を賜り、会が始まりました。講義や実習、卒業研究などさまざまな場面でお世話になった先生方、実習をさせていただいた病院・施設から大勢の方々にご出席いただき、思い出話に花を咲かせながら4年間の感謝の気持ちを伝えることができました。

新型コロナウイルス感染症の流行により先行きが見えない状況の中、さまざまな対応を施し講義をしてくださった先生方、実習を受け入れてくださった病院や施設の皆様にあらためて感謝申し上げます。

就職や大学院進学など学生の進路はさまざまですが、東北大学で学んだことを忘れずに努力を継続していく所存です。



看護学専攻



放射線技術科学専攻



検査技術科学専攻

5/24

東北大学懇談会 医学部分科会

医学部医学科長
高瀬 圭

2025年5月24日に東北大学懇談会が開催されました。川内荻ホールで実施された全体会に引き続き、星陵キャンパスで行われた医学部分科会には、98名の保護者の方々にご参加いただきました。

分科会では、教員による医学部の概要と卒業後の進路説明に続いて、医学科および保健学科卒の大学院生が自分の学部学生時代を振り返りながらキャンパスライフを紹介いたしました。その後、東北メディカル・メガバンク機構、クリニカル・スキルスラボ、臨床講義棟や図書館の医学分館など、本学の恵まれた研究・教育の環境を紹介させていただきました。医学部教員や学生とのコーヒープレイクでは、医学部での学業と研究、卒業後の進路、学生生活などについてのご質問や保護者目線からの貴重なご意見と温かいお言葉をいただき、教職員としても勉強させていただくと共に、励みになる時間を持たせていただきました。

ご参加いただきましたことに心より感謝申し上げます。



東北メディカル・メガバンク機構アトリウム見学



医学分館の紹介



教員と保護者のコーヒープレイクの様子

4/17 医学部保健学科看護学専攻ウェアセレモニー

医学部保健学科看護学専攻主任
医学系研究科 老年・在宅看護学分野 教授
尾崎 章子

2025年4月17日、医学部保健学科看護学専攻3年生のウェアセレモニーを開催しました。ウェアセレモニーとは、実習に臨む看護学生たちが、その第一歩を踏み出す重要な節目となる行事です。

当日は石井直人医学部長、宮下光令保健学科長、佐々木百合花看護部長、黒澤一医学部学生後援会会長から、実習に向かう学生に対して励ましと期待を込めた言葉が贈られました。私からも学生の皆さんへ、患者さんに向き合う誠実な姿勢と学び続ける姿勢を大切にしてほしいという願いを込めて、お話しさせていただきました。

また、医学部のロゴマークである北斗七星が刻印された記念バッジが学生代表の鈴木颯人さんに贈られました。鈴木さんから実習に臨むに当たっての強い決意と抱負が述べられました。このバッジは宮内庁御用達の歴史をもつ安藤七宝店に制作を依頼しており、毎年異なるカラーで学生の門出を彩っています。今年度も、緊張感の中にも確かな成長の兆しを感じられる、意義深いセレモ

ニーとなりました。

最後に、このような機会を支えてくださっている保護者の皆様、そして学生後援会からの温かいご支援に、関係者一同、心より感謝申し上げます。今後とも、学生たちの歩みを共に見守り、応援していただければ幸いです。



尾崎章子看護学専攻主任より記念バッジを授与される鈴木颯人さん



学生に贈られる北斗七星のロゴマークが刻印された記念バッジ



看護学専攻3年生集合写真



決意表明



医学部保健学科 看護学専攻3年 鈴木颯人さん

6月

7月

7/
30・31

8月

9月

7/30・31 東北大学医学部 オープンキャンパス2025

来場者数 2025年7月30・31日の2日間で4,150名

医学部オープンキャンパス推進委員会委員長
医学系研究科 医用画像工学分野 教授

本間 経康

今年のオープンキャンパスの医学部への来場者は2日間の合計で4,150名でした。医学科、保健学科とも学生が主体となって企画した構内案内ツアーや体験プログラム、模擬講義、学生相談や、特別企画としてエコチル調査宮城ユニットセンター、東北大学病院、加齢医学研究所、東北大学附属図書館医学分館、東北メディカル・メガバンク機構の展示・案内ツアーも催され、大変盛況でした。模擬講義も熱心に聴講していただき、医学への関心と意欲が伝わってきました。全国から集まった進学希望者に魅力をアピールでき、本格的に目指してもらったと思います。

医学科オープンキャンパス実行委員長
医学部医学科3年

坂口 裕紀

本年度は事前予約・抽選を新たに導入し、研究室ツアーや医療スキル体験の円滑な運営に取り組みました。私は基礎医学系統の企画を担当していましたが、模擬講義では医学部生としての目線でも興味深い内容が目白押しでした。参加された高校生の方々からは、自らが思い浮かべる未来をより明確にすることが出来たとの声を頂戴し、光栄でした。協力してくださった先生方、そして実行委員、ボランティアの皆様へ改めて感謝申し上げます。

保健学科オープンキャンパス実行委員長
医学部保健学科看護学専攻4年

鈴木 美羽

看護・放射線・検査の3専攻で協力し、本年も無事にオープンキャンパスを終えることができました。さまざまな企画を行い、参加された高校生がより本学星陵キャンパスでの学生生活イメージを膨らませることができたのではないかと思います。来場された高校生と本学の学生間で、積極的な交流が生まれている様子が非常に印象的でした。ご協力いただきました先生方、教務係やスキルスラボの皆様方、本当にありがとうございました。



内科医・看護師スキル体験の点滴作成



外科スキル体験の電気メス体験



実習体験コーナーの血圧測定



救急医療スキル体験

医学部 NEWS & TOPICS

第26回東北大学医学祭

開催 2025年10月12・13日 会場 東北大学 星陵キャンパス

東北大学医学祭実行委員長
医学部医学科5年

趙 世源

今年10月12日(日)・13日(月・祝)に開催される「第26回東北大学医学祭」は、コロナ禍や台風による中止を経て、実に9年ぶりの全面開催です。

今回のテーマは「医風堂々」。医療に対する信頼が揺らぎかねない昨今、あえて正面から医療の姿を“体験”として届けることを目的とし、世代を超えた対話と実感を重視しています。医師訓練用のシミュレーターを用いた手技体験、ぬいぐるみでの診察体験、VRによる緑内障の視界シミュレーションや近視チェック、超音波検査の模擬操作、がん標本の顕微鏡観察など、多彩な企画を通して医療現場の一端に触れていただけ

ます。また、著名な医師による講演会、ステージ企画、茶道部の本格茶会、歯科の健康ブースなども用意。子どもから大人まで、楽しみながら学べる医学祭です。皆様のご来場を心よりお待ちしております。



医学祭のロゴマーク



医学祭
WEBサイト



第26回東北大学医学祭ポスター



医学祭実行委員のメンバー

超硫黄生命科学研究所 レドックス代謝研究の世界最先端拠点形成

医学系研究科 レドックス分子医学分野 教授

赤池 孝章

レドックス(酸化還元)反応は、生命活動に必須であるエネルギー産生の基盤となる代謝経路を構成しています。レドックス代謝は、カルコゲンと総称される第16族元素(元素周期表)である酸素、硫黄、セレンなどにより制御されていますが、こうしたカルコゲン分子のうち中心的な役割を担っているものが超硫黄分子です。超硫黄分子は、生体のエネルギー代謝を制御し、シグナル分子として機能する一方で、老化制御(図1)やさまざまな病態に関わっています。超硫黄研究は従来のレドックス研究の新しい潮流として本研究科を中心に目覚ましい展開を見せています。現在、2021年には学術変革領域A「硫黄生物学」が、2023年からは科研費国際先導研究「レドックス超分子生命科学」(図2)などの大型研究事業(文科省科研費)が推進されています。実際、当医学系研究科(星陵キャンパス)では、レドックス代謝研究において優れた実績を有する研究者を多数擁しています。また本年度からは、国際卓越教授として欧米からトップサイエンティスト4名を招聘し国際連携を強化しており、本研究科はレドックス研究をリードする世界の一大研究拠点になっています。

このような超硫黄研究の成果のひとつとして島津製作所と東北大学の共同研究により超硫黄オミックス解析技術の開発に成功し、これを契機に2024年4月1日「島津製作所×東北大学 超硫黄生命科学共創研究所」(以下、超硫黄研究所)を創設しました(図3)。さらに、本年4月18日には、本研究科で開催した国際シンポジウムRedox Week in Sendai 2025(図4)の関連イベントとして、超硫黄研究所の開所記念式典とプレスリリースを実施して国内外から大きな反響がありました。超硫黄研究所では、超硫黄分子の特性やその生体内での機能を詳細に解明し、それを応用してさまざまな疾患の診断や治療法の確立と創薬に取り組み、特に、健康長寿に資する機能性食品の開発を通じて健康長寿社会の実現を目指しています。今後さらに世界中から国際的競争力のある優れた若手研究者を本拠点に参画させることで、レドックスシグナル、レドックス代謝、超硫黄・レドックスオミックス、レドックス分子合成分野などの戦略的な展開を図ります。このことにより、医学・生物学から、薬学、化学にわたる広範囲で学際的なレドックス代謝研究の世界最先端拠点の創成と拡張に努めます。

注目のイベント

講演会企画

星陵オーデトリウム講堂にて、各分野の第一線で活躍する著名な先生方をお招きし、講演を行います。医療ドラマの監修者や国際的に著名な先生も登壇予定で、専門知識に触れつつも、一般の方にも分かりやすく楽しめる人気企画です。



星陵オーデトリウム講堂で行われます

手技体験企画

救急車の展示や腹腔鏡シミュレーター、電気メスの体験など、実際の医療機器を使って医師の技術を体験できます。日常では触れない医療の舞台裏を、自分の目で確かめてみましょう！



先端医療技術トレーニングセンターで開催

ぬいぐるみ病院

ぬいぐるみを患者さんに見立てて、子どもたちが診察体験を行う企画です。医療に対する“こわい”気持ちを少しでも和らげることができるような温かい空間をご用意しています。



前回のぬいぐるみ病院の様子

眼科VR体験

VRゴーグルを使用し、緑内障や近視などを仮想体験できます。見え方の変化を通じ、目の健康の重要性を実感できます。全年齢の方が目の健康に興味を持てる場となっています。



眼科VR体験の様子

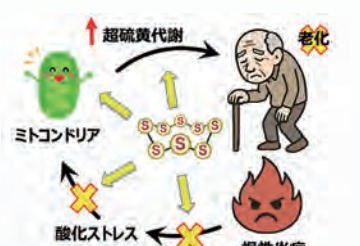


図1 超硫黄分子による老化制御と健康長寿



図3 超硫黄生命科学研究所の開所式

プレスリリース



図2 レドックス・国際先導研究(文科省・科研費)



図4 Redox Week in Sendai 2025 開催

学生受賞情報

2024年度 東北大学白菊会 鹿野記念奨学奨励賞・笠原賞授賞式



2025年5月21日、仙台国際センターにおいて東北大学白菊会第48回総会が開催されました。2011年から鹿野記念奨学奨励賞、2019年から笠原賞が創設され、解剖実習や臨床実習に真摯に取り組む未来を嘱望される医学生たちが毎年表彰を受けており、勉学に向き合う励みにもなっています。

鹿野記念奨学奨励賞

解剖学実習で学んだ医療と社会



医学部医学科3年
辰野 まな佳

貴重な学びの場を与えてくださった皆様に心より御礼申し上げます。解剖学実習では将来にわたり医学の礎となる、人体の構造や形相などを正確に理解することを学ぶとともに、医療と人がかかる社会を意識する時間にもなりました。医療の現場では、日々新しい情報が更新され、より安全で効果的な治療が探求されています。その中で、患者さんの生活や考えに寄り添いながら最良の医療を提供することが求められると考えています。今後も多様な価値観や意見に触れながら、視野を広げ、医療に従事する者として何ができるのかを考え続けていきます。与えられた機会や支えてくださっている方々への感謝を忘れず、一つの学びを大切に、日々精進してまいります。

笠原賞

実習での学びを糧に、次の一步を

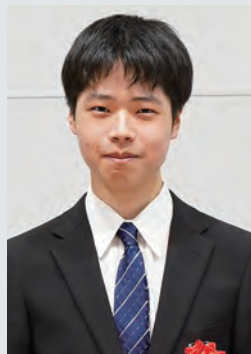


医学部医学科6年
北山 智沙子

臨床実習が始まり、私は強い責任を感じながら、患者さん一人ひとりと真摯に向き合っていました。より良い医療を提供するために、さらに知識と経験を積み重ねていきたいと考えています。また、実習を通じて、現在の医学では説明や治療が難しい事例にも直面しました。しかし、その限界を理解する臨床医こそが、次の境界を切り拓く原動力であると信じています。私は将来、「研究第一」を掲げる東北大学の卒業生として、探究心を持ち続け、医学・医療の知見を広げていける医療人を目指します。このたびの受賞を糧により一層精進いたします。最後に私を支えてくれる家族、日々温かく熱心にご指導くださる先生方、共に学ぶ大切な友人たちに、心より感謝申し上げます。

鹿野記念奨学奨励賞

尊いご厚意に学ぶ



医学部医学科3年
長谷部 由

このたびは、鹿野記念奨学奨励賞という荣誉ある賞を頂戴し、大変光栄に存じます。解剖実習では、献体という尊いご厚意に支えられて、医学を学ぶ者として大変貴重な経験を積むことができました。お身体を提供くださったご遺族と、そのご家族の皆様に、心より深く感謝申し上げます。

実習を通じて、命の尊さと医療に携わることの重みを実感し、改めて人と向き合う姿勢の大切さを学びました。これからも感謝と敬意の気持ちを忘れず、真摯に学び続け、少しでも多くの方に貢献できる医療人となるよう精進してまいります。

学術活動

避難意思決定における神経メカニズムの解明へ

研究主題目「感情制御は津波からの避難にどのように貢献するか；fMRIを用いた認知神経科学研究」で、2024年度医学部学生奨学賞最優秀賞を受賞した医学部の田久保将人さん。fMRIという特殊なMRIを使い、特定の作業をしている時に脳のどの部分の活動量が増えているかを計測し、神経メカニズムの解明に取り組んでいます。「津波からの避難意思決定における神経メカニズムの解明」というテーマで研究を行っています。被験者の方を募集し、実際のヒトの脳から直接データを集めて

いるのが大きな特徴です。災害関連という非常に東北大学らしいテーマも、オリジナリティーがあるかなと思います」と田久保さんは話します。

高校生の頃から神経領域の研究に興味があり、当初は「取りあえず研究の世界に触れてみよう」と軽い気持ちで研究活動を始めたそう。しかし、日々立ちちはかかる難題を乗り越えるごとに研究にのめり込み、成長を実感しながら前進し、学会発表や論文発表につながりました。詳細は右記QRコードからWeb記事をご覧ください。



インタビュー



医学部医学科6年
田久保 将人

第1・第2講義室の改修工事完了

医学部1号館が建てられたのは半世紀ほど前。医学部学生の授業で多く利用されている2つの講義室はこの建物の1階にあります。定期的に簡易補修が行われてきたものの経年劣化は否めず、昨年11月から今春にかけて大規模改修が行われました。

入り口は医学部ロゴのカラーにちなんで青色の扉に。天井材が張り替えられ、LED照明が部屋全体を明るく照らします。快適な環境で安心し

て学習に励んでいただけるものと思います。

(医学部事務部施設担当)



第2講義室

医学部学生後援会ウェブサイトリニューアル

2025年4月に医学部学生後援会のウェブサイトリニューアルしました。今回のリニューアルではデザインを一新し、TOPページに流れる画像が印象的になっています。前回のサイトと異なる点はNEWS欄のサムネイル画像を大きくし、行事予定や入会案内を追加したこと。今後もコンテンツの充実にも努めてまいりますので、ぜひご覧いただけますと幸いです。

東北大学医学部学生後援会
<http://www.koen.med.tohoku.ac.jp>





サークル紹介

医学部スキー部

雪と仲間に熱くなれ！

部員数：62人

活動場所：広瀬川緑地、泉ヶ岳、東北のスキー場

活動日：[4~10月] 火~日曜 [12月~3月] ほぼ毎日



医学部スキー部は、ゲレンデを駆け下りる迫力のアルペンスキーと、雪原を駆け抜ける持久戦のクロスカントリースキーの両種目に取り組んでいます。

冬は仙台だけでなく、山形蔵王や秋田の田沢湖にも足を運び、雪上で滑り込みます。夏はローラースキーや登山、トレイルランなど多彩なオフトレで技術と体力を養い、四季を通じて活動しています。BBQや芋煮、湖や海でのレクリエーションなど季節のイベントも充実しており、学年間のつながりも深いアットホームな部活です。新入生の多くは初心者ですが、上級生やコーチが一から丁寧に指導しますので、安心して競技を始められます。今年の冬も、雪をも溶かす熱いハートで競技に挑みます。

今後とも温かい応援をよろしくお願いいたします。

医学部医学科3年 葉山 弘一



サークル紹介

東洋医学研究会

日本の伝統医学を学び、楽しみ、繋ぐ

部員数：20人

活動場所：1号館実習室、6号館グループ学習室など

活動日：月、金曜（いずれも隔週）



「東洋医学」と聞いて、漢方薬や鍼灸、中には気血水など、漢方医学的診断のための基礎理論を思い浮かべる方もいらっしゃるでしょう。東洋医学研究会の主な活動は、隔週で行う東洋医学勉強会です。部員である本学学生だけでなく、学外の学生、病院漢方内科医師・鍼灸師が集まって、毎回『気』などのテーマを設けてグループ学習を行うほか、生薬を煎じたり、試飲したりしながら和気あいあいと学習しています。

冷えやしびれなど多様な症状に対応できる東洋医学は、今や西洋医学の医療システムに組み込まれて重要な役割を担っています。活動を通して、東洋医学文化の発展に寄与できるよう、部員一同尽力していきます。今年10月の医学祭にも出店を予定しています。学生後援会様のご支援、誠に感謝申し上げます。

医学部医学科3年 赤羽 輝彦

"学食" 星陵食堂より

医学部生の健康を支える学食情報をご紹介します

星陵食堂では「野菜をたくさん食べたい」という医学部生の声を受け、野菜メニューを77円で提供する小鉢コーナーなど、栄養バランスに配慮したメニューを充実させています。麺コーナーを担当する伊藤明美さんは、今年で勤務12年目。学生を待たせないよう、スピーディーな提供を心がけています。「ごちそうさまで、美味しかったです」と声をかけてくれる学生も多く、その一言が何より嬉しいと語っていました。麺メニューも、学生が飽きずに楽しめるよう、さまざまな具材を組み合わせ工夫されています。



食事を楽しむ学生たち



伊藤明美さん



レジ前のALL77円小鉢コーナー

麺メニュー不動の人気

定番

「冷やし担々麺」

(中) 528円

数ある麺メニューの中で人気ナンバー1を誇るのが「冷やし担々麺」です。例年6~9月に週2、3回はメニューに並びますが、品切れになることも多いそう。ラー油と赤唐辛子が効いた挽肉のスツと抜ける辛さと、旨みあふれるスープが麺に絡み後を引くおいしさ。冷たいシャキシャキのもやしがつっぱりなのも嬉しいポイントです。



冷やし担々麺(中)

11月にも実施予定

イベント

「秋の100円朝食」

100円

学生のお腹を100円で満たす大好評イベントが「100円朝食」(企業協賛により実施)です。物価高騰が続くなか行われた「春の100円朝食」では、多い日で307人が利用し過去最高を記録しました。今回は11月開催予定で、目にやさしい「論文レシピ」から考案された「鯖と彩り野菜の黒酢あん定食」などの健康メニューが提供されます。



星陵食堂での100円朝食はテスコ株式会社様、カリー株式会社様の協賛により実施されています

【編集後記】

仙台では例年にも増して暑さの厳しい日々が続いておりますが、皆様いかがお過ごしでしょうか？東北大学医学部学生後援会会報ナナセター第35号が完成しましたので、お手元にお届けいたします。新学期が始まり、お子様は学業や部活で忙しい日々を送られていると思います。大学行事・カリキュラムをご覧いただくとお分かりのように、これから進級・卒業に向けた様々な行事が目白押しとなっております。今後とも、保護者の皆様のご支援・ご声援をよろしくお願いいたします。

医学部学生後援会会報 ナナセター 編集委員長
医学系研究科 分子内分分泌学分野 教授

菅原 明



東北大学医学部学生後援会会報
ナナセター

Nanase Letter

第35号 2025年9月発行

本誌に掲載されている内容の無断転載、転用及び複製等の行為はご遠慮ください。

発行 東北大学医学部学生後援会

編集 東北大学医学部学生後援会会報 ナナセター編集委員

デザイン デザインマツカ

印刷 高橋写真製版

東北大学医学部学生後援会事務局

〒980-8575 宮城県仙台市青葉区星陵町2-1

TEL: 022-717-7870

med-koen@grp.tohoku.ac.jp

©東北大学医学部学生後援会



東北大学医学部学生後援会
ウェブサイト
http://www.koen.med.tohoku.ac.jp/

東北大学大学院医学系研究科・医学部
ウェブサイト
https://www.med.tohoku.ac.jp/

X
東北大学大学院医学系研究科
@tohoku_univ_med

Facebook
東北大学大学院医学系研究科・医学部
@Tohoku.University.School.of.Medicine

東北大学医療系メディア「ライフ」
ウェブサイト
https://www.life.med.tohoku.ac.jp/

